

広報委員会 2016. 11. 27

シリーズ「エスペラントの今」 No. 8

エスペラントの現状を様々な面からご紹介するシリーズの第8回目をお届けいたします。
ご質問、取材問い合わせ等は、当協会広報委員会までお願いします。

■第35回東アジア青年エスペラント合宿、大阪・京都で開催

— 日韓の青年が、エスペラントを共通言語として自ら拓いた友好50年の証 —

来る2016年12月2日(金)から5日(月)、第35回東アジア青年エスペラント合宿^[*1]が、新大阪ユースホテルと近郊の大阪市・京都市で開催されます。主催は、日本青年エスペラント連絡会^[*2]。

京都観光、和菓子作り体験、沖縄料理店での夕食と音楽の夕べ、文化体験討論、ラジオ製作体験などのプログラムが予定されています。日本、韓国、中国、ベトナム、フィリピン、インドからの約30人の参加者のあいだの共通言語は、エスペラントです。

「東アジア青年エスペラント合宿」には、特筆に値する点が、ふたつあります。

ひとつめは、1982年から毎年欠かさずことなく開催されている国際行事で、青年たちに自主的な運営で継続されている点です。ふたつめは、この交流のきっかけが、50年来(日韓国交正常化の翌年)の青年のエスペラントを共通の手段として、築いた友情が礎になっている点です。

日韓を含む、アジアの青年同士の国際交流に、かつては、たいへん難しい時代が、ありました。

1965年、滋賀県大津市で国際青年エスペラント大会がアジアで初めて開催され、欧米から青年たちが多数日本を訪れました。一方、アジアからの青年の参加は、ほとんどありませんでした。隣国韓国の青年たちは、その後の国交正常化後も、自由に日本を訪問できませんでした。

翌年の1966年早稲田大の学生たちを皮切りに、日本の青年たちが韓国を訪問するようになりました。エスペラントを学んだ青年たちが、国際交流を進めようと動き出したのです。

1971年、韓国で、日韓青年の合同合宿が企画され、梅棹忠夫(国立民族学博物館元館長、故人)を団長に7名の青年が日本から参加しました。ただ、定例行事にまでは至りませんでした。

1980年、「世界青年エスペラント機構(TEJO)」の代表だったイスラエル人のAmri Wandelが、エスペラント活動が活発な日韓の青年なら、定期的な合同行事すらないのはおかしいと提案したことがきっかけとなり、日韓双方の青年たちが、あらためて、それぞれの国内の青年に呼びかけました。

1982年8月、合同合宿(第1回日韓合同青年エスペラントセミナー)が、韓国で開催(88名:日本28、韓国60)されました。その後毎年継続され、相互に開催、訪問する形が定着しました。

毎年のメインテーマは、青年と文化、世界平和と青年とエスペラント、真の相互理解、日韓の過去現在未来、21世紀のエスペラント、日韓セミナーの将来展望、グローバル時代、青年貧困、インターネット、アジア、エコロジーなど、さまざまでした。

スポーツ、ダンス、海水浴のようなレクリエーション的な交流会だけでなく、討論会もあり、日韓の歴史や事件(教科書、指紋押捺、慰安婦、領土、日章旗への敬礼)などを、エスペラントで真摯に語り合い、親密になれる貴重な場となっています。なかには、国際結婚に至ったケースもあります。

当初、日韓の青年だけの相互開催でしたが、1995年に中国、2010年にベトナムの青年たちとの共同開催となり、35年目の今年の「東アジア青年エスペラント合宿」につながっています。(以上)

[*1] 東アジア青年エスペラント合宿 (Komuna Seminario de Esperanto)

<http://www.i-m.mx/seshimomasaya/la35aKomunaSeminario/> (エスペラント、日本語)

https://eo.wikipedia.org/wiki/Komuna_Seminario (エスペラント)

[*2] 日本青年エスペラント連絡会 (Japana Esperanto-Junularo) (正会員は35歳未満)

<http://www.jej.jp/> (日本語、エスペラント)